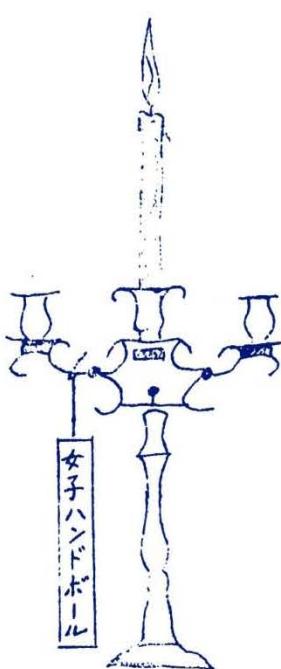


痛い合宿でした。人数は八人(次12) 小早川
久保田、佐々見、京谷、佐藤。のなが
にけれどもがく方りの人で一致団結して規
律めを合宿生も一同間を置せに二とは、大
変有意義な事でした。人数が少なくて練習
にこだえ苦ししかったが、休憩時間に家庭科
室の横でぶつ倒れて涼風をし、ふく味わ
たのも忘れられません。苦しいばかりには
なく、第一日目、前の宿直室で小久保先生
や衛藤先生、先代も中江さんを交えて難波
それに電話の事も今で機も思い出すと小
さ出し下さい。二日目も、二月の放課後で
したが、前の練習にきめ細かい教習で男
子の失望を交えてトランゴをしたり、恋愛
いをしたりして充分暮しかった。キーパー
としての思い然ほや此位にして、フオワリ
ドに変ってから的事を書こうと思いますが、
が、三年になつてやり始めて試合経験も少
いし、アーヴィード一年生が、偉そうに走
きくのも何でもないのです。
これからハニードボーラーの隆盛を祈り、
高橋ハンドボール部の活躍を期待しつつ

私のクラブ生活

佐々見淑子

が、私をそれほど喜ばないか。たゞあろうと思う。一年の三学期頃から、二年生にかけては、私にとつてハニド不一ルは、遊んで遊んでばかりた。明けでも暮れても、クラブ活動が私の生活であります。いさがいであつた。しかし、そんな夢中の状態ばかり続かなければ、とうとう言つのは、私のそんな我夢シラの気持ちにして、技術の方は、あらぬ間を過ぎてしまふと、一向に伸びてくれがないのであつた。毎日練習してろにもかくねらず、ジヤニブニユートは、依然として、力が入らない。オワードの命である、不一メーリー、フオワードの命である、不一メーリー、ヨンの勘は幼少かだから、そこで先輩にも、当然の事だが、「キーボーと代れ」と言われて、又が乍ら、自分の能力の限界を感じて、家を流した事も、しばしばだつた。しかし、その頃に乍らヒ・合宿や練習を通じての友人関係や、スクラブを通じて起る精神的な問題等について色々と真剣に考えた。人間精神がつゝ果てると、本来のその人の性格の有りの尽か表われるものである、合宿を通して、又、苦しい練習を通じて得た友人が、私には、一生の友となる様に思えてならない。合宿の夜、ボソボソと遙く迄、恋愛論を語つたり、又、早く寝ついた者の寝言に、耳を澄ましてクス



クス笑つたり、忘れられりと思ひ出が
うとて広がる。夏の合宿では暑い
さい中に、水も飲めず、ノドがカラ
いかれて、それでも不一様にショーンは半
加減されず、只、足走りに走って渉へ出る
思ひをした事も有つた。又練習の後ゴロリ
と高台に仰向けに寝ころび、空を見つ。ど
二室も、登みきつた青空に、白い雲が、ユ
タリと舞い、木々の葉緑が目にしきる。
そんな時、普段忘れていた自然の美しさに
、あ然と一息。考えてみると、グラ
ブ活動と共に、私の高校生活は、広がつて
未だ様である。勉強一本に一ぱうすに、クラ
ラブに入つて、苦しみ、樂しみ、暴れ、私
の若ハエナルギーを、思ひつきり、発散さ
せ、高校生活を意義有る、ものにしたとい
う事、だけでなく、短い、クラブ生活では有
つたけれども、以後の私にとつても、多い
に、アラスにけるものと、信じて疑ひない